

相談支援従事者研修（初任者研修・前期日程）
（サービス管理責任者／児童発達支援管理責任者向け） シラバス

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	講義 1 相談支援（障がい児者支援）の基本的視点
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	相談支援（障害児者支援）の基本的視点（1 時間分）
○	3 関連する研修目標	（1）本人主体の相談支援の目的と基本的視点を理解すること
○	4 担当講師名	日置 真世 報告者として、当事者の方数名予定
○	5 担当講師略歴	北海道大学教育学部卒業 社会福祉士 長女の障がいを機に親の会活動から NPO 法人地域生活支援ネットワークサロンを立ち上げ、事務局代表とし従事後、北海道大学子ども発達臨床研究センター助手を経て、フリーソーシャルワーカーとして全国、全道の地域づくりや人材育成をサポートし、2016 年 4 月より 北海道地域ケアマネジメントネットワーク事務局長に就任。
○	6 時間数	1時間
○	7 到達目標	・本研修（講義）の全体的な趣旨について理解する ・相談支援（障がい児者支援）の基本姿勢と基本理念について概要をつかむ ・当事者（または家族）の意思及び人格を尊重し、常に当事者の立場に立って行われるものであることを理解する。 ・障がいの多様性の理解のもと、真意の確認に配慮を要する障がい者とのコミュニケーションの基本を理解する。
○	8 教科の概要	地域生活支援の出発点は相談支援であり、当事者の話を聞くことから始まります。この講義では実際に当事者の話を相談支援経験者が聞く様子を見ることによって、相談支援の基本姿勢や障がい児者が希望する生活の具体像やサービスや人などの社会資源などについて考え、学びます。
○	9 授業方法	・説明および講義 ・障がい当事者（または家族）の方からの発信及び進行役との対談
○	10 授業計画	1. 講義全体のオリエンテーション 2. 相談支援（障がい児者支援）における当事者の声を聴くことの意義や重要性、ポイントの整理 3. 当事者数名からの発信 4. まとめ
	11 準備学習	特になし
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	講義2 相談支援（障がい児者支援）の基本理念① 障がい児者支援の法制度の理念と相談支援の基本姿勢
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・相談支援(障害児者支援)の基本理念(1.5 時間分)
○	3 関連する研修目標	(1) 本人主体の相談支援の目的と基本的視点を理解すること
○	4 担当講師名	田中 耕一郎(北星学園大学 社会福祉学部 福祉臨床学科 教授)
○	5 担当講師略歴	大阪府立大学大学院 社会福祉学研究科 博士[社会福祉学]修了 専門分野:社会福祉、障害学
○	6 時間数	1.5 時間
○	7 到達目標	・障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に至る障害者福祉施策の概略を理解する。 ・相談支援(障害児者支援)に必要な価値を学ぶ。
○	8 教科の概要	今世紀における障害者施策の動向(概説)を把握した上で、障害者福祉を方向づける4つの基本理念「ノーマライゼーションの思想」「自立支援の思想」「社会モデル」「合理的配慮」について、その誕生の背景を含めて理解し、そこから相談支援(障害児者支援)に重要なキーワードを導く
○	9 授業方法	講義形式
○	10 授業計画	1. 今世紀における障害者施策の動向(概説) 2. ノーマライゼーションの理念 3. 自立生活の思想 4. 社会モデルから合理的配慮へ 5. 障害者福祉の基本理念に基づく相談支援のキーワード
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	講義 3 相談支援（障がい児者支援）の基本的視点②
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・相談支援(障害児者支援)の基本的視点(1 時間分)
○	3 関連する研修目標	(1) 本人主体の相談支援の目的と基本的視点を理解すること
○	4 担当講師名	大久保 薫(札幌学院大学人文学部人間科学科 特別任用教授)
○	5 担当講師略歴	日本福祉大学 I 部社会福祉学部社会福祉学科卒業、札幌市地域づくりネットワークワン・オール(基幹相談支援センター)所長、社会福祉法人あむ理事、特定非営利活動法人北海道地域ケアマネジメントネットワーク代表理事、特定非営利活動法人野中ケアマネジメント研究会代表、北海道障がい者が暮らしやすい地域づくり推進本部本部員、社会福祉士、精神保健福祉士、主任相談支援専門員
○	6 時間数	1 時間
○	7 到達目標	・相談支援(障害児者支援)実践に必要な価値を学ぶ。 ・意志決定支援に関わる基本的視点を学ぶ。
○	8 教科の概要	相談支援を考える前提として、障害のある人等への支援のあり方について、福祉制度との関係を含めて考察するとともに、意志決定支援に必要な基本的な視点を確かめる。これらを通して、相談支援の前提となる「支援」とそれを担う専門機関、専門職のあり方を問う。
○	9 授業方法	講義形式
○	10 授業計画	1. 福祉制度と支援 2. 支援とは何か 3. 意志決定支援を考える
	11 準備学習	特になし
	12 教科書・参考書	「ライオンを飼いたい」(2025 年、中央法規)
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	講義 4 相談に必要な技術 相談支援の基本となる対人援助スキル
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・相談に必要な技術(1 時間分)
○	3 関連する研修目標	(2)相談支援におけるケアマネジメントの手法とプロセスを理解すること。
○	4 担当講師名	大友 愛美(NPO 法人ノーマライゼーションサポートセンターこころりんく東川副理事長)
○	5 担当講師略歴	北星学園大学文学部社会福祉学科卒業 専門分野:障害者支援 ソーシャルワーク
○	6 時間数	1 時間
○	7 到達目標	・ニーズを把握するために必要な共感的理解のスキルを身につける。 ・意思確認のベースとなる特性理解と対人援助スキルの関係を理解する。
○	8 教科の概要	言語コミュニケーションを活用した傾聴の技法をベースにしたニーズ確認のスキルを学んだうえで、重度知的障害やASDなど言語コミュニケーションだけではニーズ把握が困難な利用者とのコミュニケーションスキルについて学ぶ。さらに、事例検討を通して行うチームづくりや、支援者のメンタルヘルスに配慮した研鑽の方法について考察する。
○	9 授業方法	講義形式
○	10 授業計画	1. 面談の技法(対人援助の基本スキル) 2. 言語コミュニケーションに頼らないコミュニケーションとは 3. 事例検討を使った学びとチームづくり
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	講義 5 相談支援におけるケアマネジメントの手法とプロセス
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・相談支援(障害児者支援)の基本的視点(0.5 時間分) ・相談支援におけるケアマネジメントの手法とプロセス(1.5 時間分)
○	3 関連する研修目標	(2)相談支援におけるケアマネジメントの手法とプロセスを理解すること。
○	4 担当講師名	金子 一也(NPO 法人縁 相談支援事業所結)
○	5 担当講師略歴	平成 9 年 4 月～平成 24 年 3 月 社会福祉法人 音別憩いの郷入職。知的障害者更生施設 支援員、障害者支援施設 サービス管理責任者等に従事。 平成 24 年 4 月～令和 5 年 3 月 同 釧路市障がい者基幹相談支援センター 所長・相談支援専門員 令和 5 年 4 月～現在 NPO 法人 縁 相談支援事業所 結 副所長・主任相談支援専門員
○	6 時間数	2時間
○	7 到達目標	・本人を中心としたケアマネジメントのプロセスと必要な技術の全体像について理解する ・本人中心支援を実施するにあたり、必要な支援技術としての相談面接技術の基礎を理解する
○	8 教科の概要	ケアマネジメントは相談支援の一つの手法ではありますが、相談支援や対人援助にとって重要な要素をたくさん含んでいます。本講義ではケアマネジメントの基礎概念と歴史的な背景を理解するとともに、実際のケアマネジメントの流れを具体的にイメージできるような理念、知識、技術をお伝えします。
○	9 授業方法	DVD 視聴＋講義形式
○	10 授業計画	1. 映像教材の視聴 2. 本人主体の相談支援とケアマネジメント 3. ケアマネジメントの実際 4. 3.多職種連携、チームアプローチ
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	講義 6 相談支援における家族支援と地域資源の活用への視点 障がい児相談支援のポイント
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・相談支援における家族支援と地域資源の活用への視点(1.5 時間分)
○	3 関連する研修目標	(1) 本人主体の相談支援の目的と基本的視点を理解すること (2) 相談支援におけるケアマネジメントの手法とプロセスを理解すること。
○	4 担当講師名	佐々木 浩治(NPO法人 障がい児・者地域サポートふれあい)
○	5 担当講師略歴	札幌で幼稚園勤務を経て、足寄町の母子通園センターに入職後、足寄町の障がい児支援に携わるとともに、北海道の早期療育の現場やネットワークづくりにも貢献。2021 年 6 月より現職。
○	6 時間数	1.5 時間
○	7 到達目標	障がい児の相談支援特有の背景や現状を理解し、障がい児相談支援を不安なく受けることができるような知識や技術を学ぶ。
○	8 教科の概要	障がい児施策の変遷をとらえた上で、障がい児支援に必要な知識と大切な視点について理解し、障がい児相談支援に大切なポイントについて考えます。
○	9 授業方法	講義形式
○	10 授業計画	1. 障がい児支援における大切な考え方 2. 障がい児施策にかかわる変遷 3. 障がい児支援を実施するための基礎知識(用語の理解、障がい特性、乳幼児健診、保護者支援、発達のだ筋、発達検査) 4. 障がい児相談における大切な視点
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	講義7 障害者総合支援法及び児童福祉法の概要及びサービス提供のプロセス
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・障害者総合支援法等の理念・現状とサービス提供のプロセス及びその他関連する法律等に関する理解（1.5 時間分）
○	3 関連する研修目標	(3)障害者総合支援法(児童福祉法)におけるサービス提供のプロセスを理解すること。
○	4 担当講師名	浜尾 勇貴(根室圏域障がい者総合相談支援センター「あくせす根室」)
○	5 担当講師略歴	平成 12 年 4 月～平成 17 年 7 月 北海道立白糠学園(現 社会福祉法人北海道社会福祉事業団 白糠学園) 平成 17 年 7 月～現在 社会福祉法人北海道社会福祉事業団 根室圏域障がい者総合相談支援センター「あくせす根室」 地域づくりコーディネーター、相談支援専門員として従事。
○	6 時間数	1.5 時間
○	7 到達目標	・障がい福祉制度の動向、障害者総合支援法(児童福祉法)の概要について理解、把握する
○	8 教科の概要	相談支援専門員とサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者が関与する法制度や施策の動向、障害者総合支援法(児童福祉法)の概要について道庁職員から説明する。
○	9 授業方法	講義形式
○	10 授業計画	1. 障がい福祉制度全体の概要と制度の動向 2. 障害者総合支援および児童福祉法における相談支援 3. 相談支援専門員、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の要件 4. 計画相談のプロセスと実務
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	講義 8 障害者総合支援法等における相談支援（サービス提供）の基本 ～相談支援とケアマネジメントの実践
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・障害者総合支援法等における相談支援（サービス提供）の基本（1.5 時間分）
○	3 関連する研修目標	(1) 本人主体の相談支援の目的と基本的視点を理解すること (2) 相談支援におけるケアマネジメントの手法とプロセスを理解すること。 (3) 障害者総合支援法（児童福祉法）におけるサービス提供のプロセスを理解すること。
○	4 担当講師名	日置 真世（北海道自立支援協議会人材育成部会部会） 報告者として、相談支援専門員、サービス管理責任者等数名
○	5 担当講師略歴	（講義1に掲載）
○	6 時間数	1.5 時間
○	7 到達目標	総合支援法に基づいた実際の相談支援（障害児者支援）の現場の業務や悩み、その解決方法などについて具体的に理解し、実働に活用することができる。
○	8 教科の概要	これまでの講義内容を踏まえて、実際に相談支援（障害児者支援）の現場で働く実務者から経験談を聞くことにより、相談支援に必要な理念、知識、技術について実践に即して理解を深めます。
○	9 授業方法	実践者複数によるシンポジウム形式
○	10 授業計画	1. 趣旨説明・登壇者からの自己紹介 2. 相談支援に関する具体的な経験談 相談支援専門員になった経過や思い、理想と現実、やりがいと苦労 3. 議論により話題を深める 4. まとめ これから相談支援専門員、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者になる方へのメッセージ
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

相談支援従事者研修（初任者研修）中期日程・後期日程 シラバス

必須 項目	項目	内容
○	1 教科名	演習1 コミュニケーションの基本
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・相談支援の実際(受付及び初期相談並びに契約／アセスメント(事前評価)及びニーズ把握) (120 分)
○	3 関連する研修目標	(1) 本人主体の相談支援の各場面で求められる実践的な技術を習得すること。
○	4 担当講師名	姉帯 美和子 (MIW 工房 コミュニケーション・ナビゲーター)
○	5 担当講師略歴	札幌学院大学卒業 一般企業で編集業に携わったのち、フリーランスでコミュニケーションナビゲーター、編集者として活躍 専門分野:コミュニケーション、アサーティブ
○	6 時間数	120分
○	7 到達目標	・自分を知る ⇒ 日頃の自分の言動を振り返り、コミュニケーションのクセに気づく ・他者を知る ⇒ 自分とは違う「相手」を意識し、多面的な見方を獲得する ・聴くことを見直す
○	8 教科の概要	対人援助、相談支援の業務やプロセスにおいて重要なコミュニケーションについて実際の場面に即した様々な演習を通して学びます。
○	9 授業方法	ペアワークやグループワークなどの参加型の演習
○	10 授業計画	1.コミュニケーションの説明 2.自己紹介 3.視点(見方)の違い、チームワークの視点 4.最初の応答によって、話し手は？ 5.「聴く」こと
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習2 チームづくり
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・相談支援の実際(受付及び初期相談並びに契約／アセスメント(事前評価)及びニーズ把握) (65分)
○	3 関連する研修目標	(2)チームでの支援方法を理解すること。
○	4 担当講師名	大久保 薫(札幌学院大学) 戸田 健一(障がい者相談支援センター 夢民) 日置 真世(NPO 法人北海道地域ケアマネジメントネットワーク) 林 健一(さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール) 浜尾 勇貴(根室圏域障がい者総合相談支援センター「あくせす根室」) 佐々木 雅代(根室圏域障がい者総合相談支援センター「あくせす根室」) 安井 博子(かみかわ相談支援センターねっと) 佐藤 直美(広域相談サロンくらしネットオホーツク) 長村 麻子(十勝障がい者総合相談支援センター) 平松 浩樹(自閉症者地域生活支援センターなないろ) 細谷 恵佑(相談室ふらうむ) 小野寺 拓(地域ぬくもりサポートセンター、共同生活援助こまち) が日程ごとに担当
○	5 担当講師略歴	(募集要領参照)
○	6 時間数	65 分
○	7 到達目標	チームで演習を進めていくために、メンバーを知る
○	8 教科の概要	・グループメンバーと打ち解けあい、チームワークをつくる ・相談支援事業所名を決定し、チームとしての演習をスタートさせる
○	9 授業方法	グループワーク形式
○	10 授業計画	1.前期講義の振り返り～手順の説明(20 分) 2.グループ内自己紹介(30 分) 3.相談支援事業所名の決定と発表(15 分)
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習3 インテーク演習
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・相談支援の実際(受付及び初期相談並びに契約／アセスメント(事前評価)及びニーズ把握)(110分) ・相談支援の実際(目標の設定と計画作成)(100分)
○	3 関連する研修目標	(1)本人主体の相談支援の各場面で求められる実践的な技術を習得すること。
○	4 担当講師名	(演習2と同様)
○	5 担当講師略歴	(募集要領参照)
○	6 時間数	210分
○	7 到達目標	【演習3～8 ケアマネジメント総合演習の到達目標】 ・ケアマネジメントサイクルの一連の流れを理解する ・ケアマネジメントサイクルにおける各プロセスのポイントを理解する ・本人主体の相談支援のあり方について考え、身につける ・チーム(同僚及び応援団)とうまく協力・連携するための心構えや方法を知り、身につける 【演習3 インテーク演習の到達目標】 ・初回面談における関係づくりの重要性について理解する ・初回相談からケアマネジメント希望の確認までの流れを理解する
○	8 教科の概要	・相談者が相談に至った経過を理解する ・初回面接の基本的な流れを理解する ・面接における信頼関係の構築方法について理解し、身につける ・本人の生活状況の変化を捉え、その要因や想いの背景を推測する ・アセスメントの目的とルールについて理解する
○	9 授業方法	面接ロールプレイおよびグループワーク形式
○	10 授業計画	1.ねらい、手順の説明(15分) 2.事例概要の説明、二人一組での相談面接のロールプレイ、振り返り(110分) 3.個人ワークとグループ内共有により、本人の想いをざっくりと捉える(60分) 4.まとめとサービス利用申請からサービス等利用計画案作成の流れの説明(25分)
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習4 アセスメント演習
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・相談支援の実際(受付及び初期相談並びに契約／アセスメント(事前評価)及びニーズ把握)(75 分) ・実践研究3(実践研究とサービス等利用計画作成)(110 分)
○	3 関連する研修目標	(1) 本人主体の相談支援の各場面で求められる実践的な技術を習得すること。
○	4 担当講師名	(演習2と同様)
○	5 担当講師略歴	(募集要領参照)
○	6 時間数	185 分
○	7 到達目標	・多角的で想像豊かな視点と本人目線でデマンドからニーズに迫るプロセスを理解する
○	8 教科の概要	・複数の人による多角的な見方や発想でニーズに迫るプロセスを体験する ・収集したアセスメント情報を整理し、プランニングへつなげる
○	9 授業方法	グループワーク形式
○	10 授業計画	1.ねらい、手順の説明(10 分) 2.質問形式によるアセスメント(110 分) 3.短文作成法を活用した情報の整理(65 分)
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習5 プランニング演習
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・相談支援の実際(目標の設定と計画作成)(90分) ・実践研究3(実践研究とサービス等利用計画作成)(140分)
○	3 関連する研修目標	(1)本人主体の相談支援の各場面で求められる実践的な技術を習得すること。 (2)チームでの支援方法を理解すること。
○	4 担当講師名	(演習2と同様)
○	5 担当講師略歴	(募集要領参照)
○	6 時間数	230分
○	7 到達目標	本人の願いと可能性に基づくプランニングの手法を理解する
○	8 教科の概要	・本人のニーズを中心に具体化するための方法を考える ・サービス等利用計画を含む本人中心支援計画の意義を理解する
○	9 授業方法	グループワーク形式
○	10 授業計画	1.手順の説明と情報整理(リフレーミング、ストレングス)(30分) 2.計画の土台作りとしてプランニング補助シートの作成(個人ワークとグループ共有)(45分) 3.本人中心支援計画(サービス等利用計画案)の作成(個人ワークとグループ共有)(145分) 4.計画作成の振り返りとまとめ(10分)
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習6 模擬会議演習
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・相談支援の実際(評価及び終結) (90 分) ・実践研究2(実践例の共有と相互評価2) (20 分)
○	3 関連する研修目標	(1) 本人主体の相談支援の各場面で求められる実践的な技術を習得すること。 (2) チームでの支援方法を理解すること。
○	4 担当講師名	(演習2と同様)
○	5 担当講師略歴	(募集要領参照)
○	6 時間数	110 分
○	7 到達目標	会議の進行のコツや配慮点を考える
○	8 教科の概要	・本人中心支援計画に基づく「サービス担当者会議」「ケア会議」とは何か理解する ・会議の開催のための相談支援専門員の準備業務について理解する ・会議を円滑に有意義に行うための運営方法、配慮などを理解する ・会議に参加する場合の留意点、役割などを知る
○	9 授業方法	グループワーク形式
○	10 授業計画	1.作業説明(15 分) 2.サービス担当者会議のロールプレイ(45 分) 3.ケア会議のロールプレイ(40 分) 4.まとめ(10 分)
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習7 モニタリング・エバリュエーション演習
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・相談支援の実際(評価及び終結) (50 分)
○	3 関連する研修目標	(1) 本人主体の相談支援の各場面で求められる実践的な技術を習得すること。 (2) チームでの支援方法を理解すること。
○	4 担当講師名	(演習2と同様)
○	5 担当講師略歴	(募集要領参照)
○	6 時間数	50 分
○	7 到達目標	本人中心支援計画実行後の見守りと見直しのプロセスを学ぶ
○	8 教科の概要	・本人中心支援計画実行からモニタリング～エバリュエーションの流れを理解する ・相談支援専門員の具体的なモニタリング業務について理解する ・再アセスメントもしくは終了への流れを理解する
○	9 授業方法	グループワーク形式
○	10 授業計画	1.手順の説明(10 分) 2.計画実行後に相談支援専門員としてどのように行動するか、その時の留意点についての個人ワークとグループ内共有(25 分) 3.まとめ(15 分)
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習 8 社会資源活用・開発演習
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・相談支援の実際(評価及び終結) (40 分) ・実践研究3(実践研究とサービス等利用計画作成) (90 分)
○	3 関連する研修目標	(1) 本人主体の相談支援の各場面で求められる実践的な技術を習得すること。 (2) チームでの支援方法を理解すること。
○	4 担当講師名	(演習2と同様)
○	5 担当講師略歴	(募集要領参照)
○	6 時間数	130 分
○	7 到達目標	個別のニーズから地域に必要な社会資源の開発するプロセスを学ぶとともに、協議会の機能と役割について理解する
○	8 教科の概要	・地域にとって必要な資源を創出することの必要性を理解する ・社会資源の活用法、開発法について考え、発想を広げる
○	9 授業方法	グループワーク形式
○	10 授業計画	1.手順の説明(15 分) 2.地域課題の抽出と解決のための社会資源の具体化についての個人ワークとグループ作業(75 分) 3.具体化した社会資源企画のプレゼンテーション(25 分) 4.まとめと協議会の説明(15 分)
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	実習ガイダンス
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・実習ガイダンス(60 分)
○	3 関連する研修目標	(3)実習の位置付けと目的、実施方法を理解すること。
○	4 担当講師名	(演習2と同様)
○	5 担当講師略歴	(募集要領参照)
○	6 時間数	60 分
○	7 到達目標	実習の意義と内容を理解する
○	8 教科の概要	・実習の位置付けと目的、方法について理解する ・中期日程3日間で気付いたこと、学んだことを整理して、実習につなげる
○	9 授業方法	グループワーク形式
○	10 授業計画	1.実習ガイダンス(30 分) 2.中期日程の振り返りの個人ワークとグループ共有(25 分) 3.まとめ(5 分)
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習9 計画検証演習
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・実践研究1(実践例の共有と相互評価1) (25 分) ・実践研究2(実践例の共有と相互評価2) (40 分)
○	3 関連する研修目標	(1)実習において自ら実施したアセスメント、プランニング等について、根拠を踏まえてわかりやすく説明できること。
○	4 担当講師名	(演習2と同様)
○	5 担当講師略歴	(募集要領参照)
○	6 時間数	65 分
○	7 到達目標	実習で作成した計画を評価ツールを用いて自己評価する
○	8 教科の概要	・前期(講義)と中期(演習)を振り返り、相談支援の一連のプロセスを再確認する ・計画の質向上のため、検証することの必要性について理解する ・実習事例の計画を、客観的に検証する
○	9 授業方法	グループワーク形式
○	10 授業計画	1.前期、中期の振り返りについてのグループ内共有(25 分) 2.評価ツールを用いた計画の自己評価と結果についての感想共有(35 分) 3.まとめ(5 分)
	11 準備学習	実習課題1 実習事例を1事例選定し、ケアマネジメントの一連の流れを実習
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	・平成 23 年度障害者総合福祉推進事業 「サービス利用計画の実態と今後のあり方に関する研究」 特定非営利活動法人 日本相談支援専門員協会 https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaisishahukushi/cyousajigyou/sougoufukushi/h23_jigyo.html ・平成 24 年度障害者総合福祉推進事業 「サービス等利用計画の評価指標に関する調査について」 特定非営利活動法人 日本相談支援専門員協会 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaisishahukushi/cyousajigyou/sougoufukushi/h24_jigyo.html

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習 10 実習報告演習 I
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・実践研究1(実践例の共有と相互評価1) (335 分)
○	3 関連する研修目標	(1)実習において自ら実施したアセスメント、プランニング等について、根拠を踏まえてわかりやすく説明できること。
○	4 担当講師名	(演習2と同様)
○	5 担当講師略歴	(募集要領参照)
○	6 時間数	335 分
○	7 到達目標	実習事例を報告し合い、相互評価により新たな視点を探る
○	8 教科の概要	・実習事例におけるアセスメント、計画内容を簡潔に報告する ・実習での体験を通して、迷った点、苦労した点について意見交換する ・メンバーからの多角的な意見により、本人理解や支援内容の新たな視点を探る
○	9 授業方法	事例検討
○	10 授業計画	1.手順の説明(10 分) 2.実習報告×5～6 事例 ①事例の概要把握 10 分 ②対象者理解のための質疑応答 15 分 ③中間まとめ(本人の意向と検討したい点の再確認)5 分 ④意見交換とアイデア出し 15 分 ⑤まとめ 5 分
	11 準備学習	実習課題1 実習事例を1事例選定し、ケアマネジメントの一連の流れを実習
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習10（つづき） 実習報告演習Ⅱ
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・実践研究2(実践例の共有と相互評価2) (120 分)
○	3 関連する研修目標	(2)他者からの多角的な意見により自らの実習内容を見直し、修正することができること。
○	4 担当講師名	(演習2と同様)
○	5 担当講師略歴	(募集要領参照)
○	6 時間数	120 分
○	7 到達目標	多様な意見、アイデアを基に計画を見直す
○	8 教科の概要	実習報告演習Ⅰで得られた多様な意見、アイデアを基に、追加の情報収集、再アセスメントについて考え、計画を見直す
○	9 授業方法	グループワーク形式
○	10 授業計画	1.手順の説明 10 分 2.アセスメント(100 文字要約)の見直し個人作業とグループ内共有 25 分 3.計画の見直し個人作業とグループ内共有 55 分 4.計画相談の実務的な制度説明とまとめ 30 分
	11 準備学習	実習課題1 実習事例を1事例選定し、ケアマネジメントの一連の流れを実習
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習 1 1 地域演習 I II
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・実践研究2(実践例の共有と相互評価2) (60 分) ・実践研修3(実践研究とサービス等利用計画作成) (30 分) ・研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り (90 分)
○	3 関連する研修目標	(3) 地域課題の把握と課題解決のためのネットワークの重要性を理解すること。
○	4 担当講師名	(演習2と同様)
○	5 担当講師略歴	(募集要領参照)
○	6 時間数	180 分
○	7 到達目標	・地域を知る、見つめ直す ・今後の相談支援実践に向けて、メンバーから明日から活かせるアイデアを得る
○	8 教科の概要	・地域(事業所所在市町村やグループメンバーの市町村)の色々な社会資源や協議会の理解を深める ・他者からのアイデアやサポートを受けて、個人、職場、地域での「できたらいいな」を具体化する
○	9 授業方法	グループワーク形式
○	10 授業計画	1.実習課題2をもとに、地域の社会資源の状況、協議会についての報告と質疑応答 60 分 2. 他者からアイデア・ヒントがほしいことを提起し、それに対してグループメンバーがアイデアを提供 90 分 3.アイデアの具体化と発表、まとめ 30 分
	11 準備学習	実習課題2 自らの業務地域の状況を知るための地域の調査
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	

必須項目	項目	内容
○	1 教科名	演習 1 2 研修の振り返り
○	2 国が定める標準カリキュラム上の科目名	・研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り（60 分）
○	3 関連する研修目標	(3) 地域課題の把握と課題解決のためのネットワークの重要性を理解すること。
○	4 担当講師名	(演習2と同様)
○	5 担当講師略歴	(募集要領参照)
○	6 時間数	60 分
○	7 到達目標	相談支援に大切な視点、価値観を整理し、言語化する
○	8 教科の概要	・研修全日程を通じて気付いたこと、学んだことを整理する ・相談支援にとって大切な視点や価値観について改めて考える ・学びや気づきから重要なポイントを拾い、端的に表現してみる
○	9 授業方法	グループワーク形式
○	10 授業計画	1.手順の説明(5 分) 2.研修の振り返りと重要なポイントの整理の個人ワークとグループ内共有(20 分) 3.「相談支援の五七五」の作成と全体発表(25 分) 4.まとめ(10 分)
	11 準備学習	
	12 教科書・参考書	
	13 注意事項	
	14 参照リンク	